

町政を問う

ここが聞きたい！

9月議会・8人が質問

廃合推進委員会を45名により設置され、協議が進められておりますが、進行状況及び今後の対応について伺う。

答（教育長）第1回の推進委員会を6月28日に開催、推進委員会の目的及び組織等について確認の後、和水町教育創造計画並びに統廃合の経緯等を説明し、今後の進め方を確認、第2回の推進委員会を平成22年7月14日、阿蘇の産山小中学校を視察研修地として訪問した。

阿蘇の産山村教育委員会産山小中学校は、県内でも早期から小中一貫教育に取り組んでおり、成果を上げられているところで、参加された推進委員の皆さんも、直に学習の様子を目にされ、又、委員会及び学校の先生方との懇談を通じて、小中一貫教育の実際を理解された。

第3回の推進委員会を平成22年8月17日に開催し、検討した内容を各委員の各校区及び幼稚園、保育園に持ち帰つて、校区ごとに話し合い、又



蒲池 恭一議員

報告の場がもたれ、理解が図られるものと捉えている。

第4回の推進委員会を平成22年9月29日に計画しており第4回では各校区での話し合いの結果を持ち寄り、検討を重ね、推進委員会としての両地区一定の案の方針付けを図つていく。

問 中山間地である我が町での農業の重要性をどのように思われているかを伺う。
答 (経済課長) 和水町の基幹産業は農業であり、国民の食料生産という基本的なことを併せて、農村環境を守ることとすることと思う。

農業振興について

(町長)三加和地区においても、ひとも菊水地区においても、ひとつずつエリアとして定めて、それぞれの地域において2案3案あり、方向、気持ちは定めているが、理解していただきために、更に町民の方々にご説明を重ねており、そういう教育環境を整え「この地に生まれてよかつた」、「この和水町の学校に通ってよかつた」として外からは「和水町の教育は素晴らしいな」、「自分の子どもも和水町で通わせたい」そういう教育環境、ひいては、それが町振興、そして定住に繋がるものと理解している

問 例えれば、みかんにおいては、肥料、農薬、生産出荷経費等で80円から90円ぐらいかかる様な状態で、そんな中で認定農業者等を利用した中で肥料の助成は出来ないか。

答 (町長)議員さんの農業に対する思い、それに関して、今一度担当課のほうで検討し、現状を把握し、その報告を受けて、首長として判断する。

他、農業後継者の未婚の方が年々増えていますので、それについて質問しました。

この現状をどの様に捉えらる
又、町として支援等の考えが
あるのかを伺う。

答（経済課長 和水町独自で
は、農業の振興を図るため、認
定農業者、集落営農組織、農作
業委託等が行う補助事業に要
する経費に対して補助金を交
付する和水町農業振興補助金
交付規則を平成18年に制定し、
支援している。



一斉に始まった稲収穫(下津原地区)